

代表 表 平成31年度施政方針より
みどり21 質問者…内田 隆



Q 新年度からこども未来部が創設される。市民窓口のワンストップ化のために平成18年に市長部局にこどもみらい課を創設し、平成26年度に教育委員会に幼児教育課を創設した。今回、また市長部局にこども未来部を創設することについて、どんな反省と課題の整理がされているか。

A 教育委員会に幼児教育課を創設し幼稚園、保育園と小学校との連携により一定の成果は上がったが、一方で市民の皆様にはげやきや中央公民館へ行く等の負担がかかった。今後は就学前の子どもに関する事務のワンストップ化により利便性を向上させ、課題となる学校との連携はこれまで以上の連携と情報の共有化に努める。

Q 「子育てするなら菊川市」を掲げる市長として、待機児童対策は大変重要な施策であるはずだが、現状や数年後を見据えどのような所見を持っているのか。

A 今後においても保育ニーズは上昇すると考えている。特に1、

2才の対策が課題であるので状況に合わせた待機児童対策に取り組んで行く。

Q 今年はワールドカップ、来年はオリンピック、パラリンピックが開催され、訪日外国人は更に大きく伸びることが期待される。観光資源の少ない菊川市にとってもう少し絞った施策を打つべきではないか。

A 観光施策として基本的には、市外、県外の人をターゲットにし



こども未来部窓口

ている。訪日客への対応としては、離日前の富士山静岡空港での空き時間を活用した、棚田の見学等を提案していく。

Q 昨今の異常気象の要因のひとつは、化石燃料の大量使用と言われている。その対策のひとつとして、ゴミの減量化にどう対応していくのか。

A 今年度実施した調査結果を基に排出量の多い自治会や分別が適正でない自治会へ押し掛け出前講座を実施する。

Q 基幹産業の茶業は平成12年をピークに年々生産額が下がり、農家によっては10a当たりの生産額が3分の1以下になったとも言われている。菊川市における茶業は生産農家だけでなく、市の経済、土地利用、関連産業等多方面へ影響を及ぼす産業である。現状を踏まえ将来をどのように描いているのか。

A お茶が大変厳しい状況にあることは理解している。昨年見直した茶業振興計画で、経営体の強化ブランド化の確立、茶文化の継承等を中心に茶業振興に向けて取り組んで行く。

Q 菊川市にとって背骨とも言える掛浜バイパスは、数多くの地権者や国・県の支援により順次新区間が開通され、渋滞解消等大きな効果が出ている。しかし、ここ数年は予算化はされても用地取得の難航により、補正予算での減額が続いている。すでに土地を提供してくれた地権者や全線開通を心待ちにしている人々に対し、今後どのような対応をしていくのか。

A 用地交渉を重ねて来たが、条件が大きく乖離していて、用地取得が出来ていない。計画路線上には県の施工する部分においても用地交渉が難航している部分があり、県の進捗状況を見ながら対応を協議していきたい。



掛浜バイパス